

## 血塗られた弾丸

陝間 龍神

48 これは、けん銃の使われた犯罪の数です。

492 これは、押収されたけん銃の数です。

ここで、皆さんはこの数はどこの国のものだと思いますか？

——これは、2008年の日本の統計なのです。

皆さんは、今までにこのようなことを考えたことがありますか？ 多分、ほとんどの人がないと思います。なぜなら、日本にはこれらの関する資料や書籍などがほんの少ししかないからです。

そこで今日、僕は多くの人（僕が思うに、特に日本人）が学ぶべきであろう銃社会についてお話ししたいと思います。

プレゼンテーションのタイトルは、『血塗られた弾丸～我々は銃社会に対して何をすべきなのか～』です。

多くの日本人は銃に興味がなく、もし僕が日本が一体どれだけ大きな危機に瀕しているのかを伝えようとしてもそれを全く聞いてくれません。なので、皆さんに日本の銃社会の真実をお伝えするための最初の一歩としてこのプレゼンテーションを発表したいと思います。最初にお伝えしたように、日本には数百もの違法銃があります。もしこの問題をほったらかしにすると、日本はこれから僕が皆さんにお教えるようなひどい国になってしまいます。

なので、どうか僕のためにも、そしてまた皆さんのためにも注意深くお聞きください。

では、まず皆さんにプレゼンの予定をお教えしたいと思います。

プレゼンの予定は

- 1) 日本は、銃社会の一つである
- 2) 日本人は、銃について無知である
- 3) 何をすべきか

予定は以上です。では早速、最初のポイントに移りたいと思います。

最初のポイントは、『日本は、銃社会の一つである』です。

今日、日本では世界の中でも特に厳しい銃規制が敷かれています。なので、ほとんどの日本人がけん銃（銃）を映画、テレビのニュース、もしくは玩具などでしか見たことがないと思います。そして中には、実銃のみならず玩具の銃すら触ったことのない人もいると思います。

しかし、法務省の調べによると2008年、日本では銃を使用した犯罪が48件あり、10人が亡くなっています。要するに、単純計算で各県に一件ずつ犯罪があったということです。

これらのことは、映画やテレビニュースの中の出来事ではないのです。これらは私たちの周りにあるのです。しかも決して遠くなく、とても近くにです。

他の調べによると、492丁もの銃が同じ年に押収されています。要するに、各県に10丁ずつ銃があったということです。しかし、とある本によると実際はこの数字の5~10倍の数の銃が日本にあるそうです。そうすると、結果的に50~100丁もの銃が各県にあるということになり、日本人5285~2642人に一人は銃を持っているということになります。これらはアメリカやその他の外国のみの出来事ではありません。これらは私たちのすぐそばにあるのです、銃というものは。

なので、私たちは『日本は銃社会の一つである』と言えらると思います。

これが最初のポイントです。

では、最初のポイントを説明したので、二つ目のポイントに移りたいと思います。

二つ目のポイントは、『日本人は銃について無知である』です。

ここに、二つのビデオがあります。最初のはレーガン大統領暗殺未遂のビデオで、二つ目は金丸元副総裁の暗殺未遂のビデオです。

御覧のように、アメリカ人は最初の一発で何かしらの行動を取っていますが、日本人は三発目が撃たれても何の行動も取っていません。金丸さんは、警察が犯人を取り押さえるまで握手をしています。

なぜこのような違いがあるのかというと、これは銃に対する意識の違いだと思います。多くの日本人は銃に関心がなく、彼らは銃は異世界の異物で、自分たちには何の繋がりもないと考えています。なので、彼らは銃について何も知らず、銃を撃たれたときに何の行動も取れないのです。

僕は、インターネットを使用してアンケートをとりました。すると、約 60 人の方が僕のページを訪れてくれました。しかし、アンケートに答えてくれたのはほんの数人で、他約 95%の人は答えてくれませんでした。僕は、これは約 95%の日本人が銃に関心を持っていないということを表していると思います。もしかすると、彼らは答えるのが面倒だったのかもしれませんが、しかし、もし本当に面倒ならば僕のページを訪れないはずで、彼らは銃に関心を持っていなかったと言えると思います。

さて、先に述べたように僕はほんのわずかな回答を得ることができたので、それを集計してみました。

すると、0%の人々が銃について知っていて、また同時に銃を撃たれた時の正しい対処法を知っていました。

これは大問題です。前に述べたように、日本は銃社会の一つなのです。しかし、人々は銃について何も知りません。これは、彼らが彼ら自身と日本を守ることができないということを表しています。これは、日本政府の崩壊を引き起こすことにもつながりかねません。

これが二つ目のポイントです。

さて、僕は二つ目のポイントを話し終えたので、三つ目のポイントに移りたいと思います。

三つ目のポイントは、『何をすべきか』です。

一体何をすべきなのか？ その答えは簡単です。銃について学べばよいのです。

世の中には、二つのタイプの人々がいます。銃を好きな人と、嫌いな人です。

僕は、人がどちら側を選ぶのかは自由だと思っています。しかし、どちらかを支持し、意見を言わなければならないとき、あなたは銃について知っていなければなりません。特に、銃を嫌う側を支持する場合。理由は、最初に、もしあなたが銃について知っていなければあなたは銃について何も言うことができません。

あなたが銃について知らないとき、あなたはなぜ銃がいけないのかに気付くことができず、強い意見を言えなくなってしまいます。

次に、もし銃について知らなければあなたは混乱してしまいます。

あなたが銃を嫌う時、あなたはいつかの理由があって嫌っているはずで、しかし時々、銃について知らないあなたは銃を嫌う理由を探ることができなくなってしまいます。あなたは、なぜ自分が銃を嫌っているのか理解できなくなってしまいます。もしあなたが何の理由も持っていないのであれば、それはあなたが銃を嫌っていないということになってしまいます。しかし心の中では、あなたは銃を嫌っています。ここで、あなたは混乱してしまうのです。

最後に、銃について知らないとはあなたは他人、もしくは自分自身を傷つけてしまいかねません。

もちろん、銃を使うか使わないかを選ぶのもあなたの自由ですが、あなたは銃について学ぶべきです。なぜなら、もしあなたが銃を使わなければならなくなった時、もしあなたが使い方を知らなければあなたはそれを使うことができず、またあるときはミスをしてしまってあなたは他の人、もしくは自分自身をも傷つけかねません。

なので、すべての人は銃について学ぶべきなのです。

僕が思うに、もし銃を嫌いになりたいのであれば、銃を愛すればいいです。そうすれば、銃の悪さについて調べるよりも早く分かり、そして自然に銃が嫌いになります。

そして時には、銃について知ることはあなたの命を救うかもしれません。

もしあなたが事件に巻き込まれた時、銃について知っていることは何も知らないことよりも良いはずですよ。

敵を知ることは、己を守ることにつながるのです。

これが三つ目のポイントです。

さて、僕は三つ目のポイント——最後のポイント——を皆さんにお話ししました。

なので次、まとめに移りたいと思います。

最初のポイントで、僕は皆さんに日本が銃社会であるということをお話ししました。

日本にはたくさん銃があり、それは映画の中だけの出来事ではなく、私たちのとても近くにいます。

二つ目のポイントでは、ほとんどの日本人が銃について知らないということをお話ししました。

多くの日本人が銃に対する意識がなく、彼らは銃を撃たれたときに何をすべきなのかを全く知りません。

三つ目のポイントでは、何をすべきなのかについてお話ししました。

すべきことは、銃について学ぶこと。銃について学ぶと、あなたの銃を嫌う意見をもっと強く有効的なものにしてくれます。

銃について学んで、多くの人が銃を意識していないようなこの安全な国から、銃社会と戦っていきましょう。さもなければ、国は銃があなたの命を奪うような危険な国になってしまいます。もしそうならほしくなければ、どうか戦ってください。そしてこの国日本から、銃社会をなくし、最終的には世界からもなくしましょう。

僕が前に述べたように、日本の裏社会には大量の銃が出回っています。もしそれらが一気に日本の社会に出たとき、あなたは何かどうなるのか想像できますか？ 僕が思うに、日本政府は銃によって倒され、日本はソマリア、ナイジェリア、コンゴのように銃によって支配される“失敗国家”(銃が支配している国家)になってしまいます。もしそうなら、私たちは銃を手に入れ、それを使わなければなりません。多くの人々

が殺されるでしょう。私たちは、たとえ散歩のためだけでも安全と銃なしでは外を出歩くことができなくなってしまいます。僕は、日本がそうならないことを祈っています。なので、どうか銃への意識を持ってください。

僕は、銃はそこにあり、絶対になくなるということを皆さんにお教えします。

そしてまた、銃は絶対に人を殺しません、人は人を銃を使って殺します。

もしあなたが銃を嫌っているなら、決して銃を恨んではいけません。しかし、どうか銃について学んで、人々の心を変えてください。銃は絶対になくなりませんが、それ自体が人を殺すことはありません。しかし、人は人をそのような強力な武器で人を傷つけます。なのでどうか、人々、そしてあなたの心を変えてください。

ご静聴、ありがとうございました。